

平成22年度 女性のチャレンジ賞 受賞者（全4件）

（各賞ごと 50音順・敬称略）

受賞者名	所属	都道府県	活動内容
うめき 梅木 あゆみ	有限会社コテージガーデン代表取締役	北海道	4人の子育てをしながら、平成7年、ガーデニングの趣味を活かし、生産直販園芸店「コテージガーデン」を創業。珍しい品種の花苗販売やガーデニング手法などが評判となり、現在では本拠地月形町のほか、札幌市にも店舗を構える。仕事の内容も多岐に渡り、植物苗約2千品種の生産直販のほか、テーマパーク内の敷地面積1万坪にも及ぶ大規模な庭園のデザインをはじめ、公園や庭園のガーデニング設計、植栽工事、管理なども手掛けている。また、北海道の自然、緑、花をテーマに“美しい庭園の島・北海道”の実現を目指す道民運動を進めるNPO法人に理事として参加するなど、ガーデニングや北海道観光の魅力を道内そして全国に向けて発信している。
そうがわ としこ 寒川 歳子	前美山村森林組合代表理事組合長	和歌山県	山林業を営んでいた夫の死を契機に、知識や技術が乏しい中で跡を継ぎ、林業経営に携わりながら、純粹ひのき香油等を販売する工房を経営。平成16年には、全国初の女性の森林組合長に就任し、2期6年を務めた。就任時、組合は経営危機にあったが、こまめな地域懇談会での情報共有、財務会計の徹底的な見直し、組合員からの増資などにより、経営を立て直した。同時に、独自のグリーンキーパー制度等によるIターン者の受入れなどにより、作業員の平均年齢を大幅に若返らせ、技術力の向上と資格取得を促進し、高性能林業機械を次々と導入するなどの改革を推進。長期的展望に立った後継者育成、低コスト林業の推進は、全国的にも高い評価を得ている。
にいざき 新関 さとみ	さとみの漬物講座企業組合理事長	山形県	義母が作った山形の漬物のおいしさに感動し、作り方を学んで農産物直売所で販売。平成13年からケーブルテレビで漬物講座番組を5年間続け、平成15年には、山形県内初の企業組合「さとみの漬物講座企業組合」を設立。山形の漬物・漬物のたれ・手作り味噌・漬物レシピ本等の販売や作り方講座を中心に、総合サービスの漬物事業を展開しているほか、山形の伝統的食文化を伝える活動にも力を入れている。現在は、東北各県における講座の開催や、インターネットによる全国販売に活動範囲を拡大。また、女性起業家として県内外で講演を行うとともに、平成21年に設立された「みやぎ・やまがた女性交流機構」の理事としても活躍している。
ふじわら こ 藤原 たか子	マイスター工房八千代施設長	兵庫県	平成13年10月に「マイスター工房八千代」をオープンさせ、施設長として地産地消を核とする地域活性化に尽力している。地元食材を活用した料理研究の実績を活かし、「天船巻き寿司」を創作。「一度食べたら忘れられない味」として人気を博し、一日1,500本が飛ぶように売れ、週4日の営業ながら、年間売上が1億8,000万円を超える等、右肩上がりの経営実績を上げている。また、多くの地域女性の就業機会を創出し、スタッフ一人あたり月給20万円以上を実現するとともに、子育てや介護と両立できる就労環境の整備に努めている。さらに、地域住民が集える施設を整備し、交流会等の開催を通じた地域福祉や文化活動にも多大な貢献をしている。

平成22年度 女性のチャレンジ支援賞 受賞者（全1件）

受賞団体名	代表者氏名	都道府県	活動内容
特定非営利活動法人北海道子育て支援ワーカーズ	代表理事 小川 京子	北海道	平成8年に発足した北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会託児部会が、任意団体を設立し、平成14年にNPO法人化。親子で本に親しんでもらう「お出かけ図書室」、おもちゃや遊びのイベント、事業所内保育所の運営等を行っている。子どもを育てながら仕事をしている人を対象として、急な残業や出張、子どもの急病などの場合に、事前登録の地域スタッフ会員が子どもの世話を引き受ける「病児・緊急預かり対応基盤整備事業」を「子ども緊急さぼねっと」として実施。サポートしてほしい人とできる人を組織化し、仕事と育児の両立支援、地域の助け合いの仕組みづくりを行っており、子育て中のお母さんが新たに仕事を探す際にも役立っている。

平成22年度 女性のチャレンジ賞特別部門賞 受賞者（全3件） （新しい公共）

受賞者名	所属	都道府県	活動内容
田中 美穂	特定非営利活動法人STEP・北九州理事 北九州市ひきこもり地域支援センター長	福岡県	自身の子育て経験から、不登校問題を考えるようになり、平成3年に「学校に行かない子どもを支える会・北九州」に加入し、市民活動を開始した。その中で、当時あまり注目されていなかった「ひきこもり」問題にいち早く取り組み、親の会に続いて当事者会を設立。本格的にこの問題と向き合うため、平成19年に「STEP・北九州」として再スタートを切り、支援者のネットワークづくりに尽力。そして、北九州市が開設した「ひきこもり地域支援センター」の運営受託を機にNPO法人化し、現在は、センターでの相談業務を中心に、フリースペース「やわらかカフェ」の運営を行いながら、新たな拠点の開設や就労体験の受入先の開拓などに取り組んでいる。
日置 真世	特定非営利活動法人地域生活支援ネットワークサロン理事兼事務局顧問 北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター助手	北海道	平成6年、釧路市にある障がい児子育て支援グループ「マザーグースの会」の活動に参加。その後、障がい者も健常者も隔たりなく、いきいきと暮らせる地域づくりの必要性を感じ、平成12年に「NPO法人地域生活支援ネットワークサロン」を設立した。障がい者の通所サービスの提供など、事業を次々と展開し、平成19年には、障がい者、高齢者、生活保護受給者など、様々な困難を抱える方がお互いに支え合って暮らせる「コミュニティハウス冬月荘」をオープンさせた。常に利用者のニーズや地域の課題に向き合い、地域の「ヒト・モノ・カネ・チエ」を組み合わせサービスを提供する活動は、コミュニティビジネスの先進的事例として高く評価されている。
もり森 綾子	特定非営利活動法人宝塚NPOセンター専務理事	兵庫県	阪神・淡路大震災をきっかけに、生活弱者のみを救済するためのボランティアではなく、市民が互いに助け合っていくこと、市民自らの活動を支援する事業が必要であると考え、NPO法人を設立。市民活動を継続させていくためには適切な利益の確保が必要なことから、コミュニティビジネスの分野にも取り組み、蓄積してきた情報発信、起業相談、資金調達などのノウハウ・ツールを提供し、全国の中間支援NPOの基盤強化やコミュニティ活性化に取り組んでいる。また、平成21年4月からは、宝塚市より「第5次宝塚市総合計画策定業務」を受託し、市の10年後のビジョンづくりに深く関わっており、行政とNPOの協働事業のモデルケースとなっている。